

第17号

改題通算43号

# 収蔵館NEWS



**大切な記念日とその思い出を残す写真は  
「家族の記憶遺産」であり、  
社会の移り変わりを伝える「久留米の歴史遺産」。**

令和2年度寄贈を受けた「江崎家資料（第3次）」は、明治時代から昭和戦前期にかけての写真を中心とする資料群です。寄贈者の叔父のアルバムには、少年時代から明善校を経てブリヂストンタイヤへ就職後も、野球に捧げた青春が写し出されています。出征を祝す壮行会や武運長久を祈る祈願祭の写真もあり、当時の世相やその時代を生きた人々の姿を伝えています。

新資料紹介

【今村哲朗家資料】

今村家の家屋は、江戸時代後期の嘉永7年(1854)に建設されました。敷地内にはツバキ「正義」の原木があります。

当資料群は、平成27年3月に寄贈の申し出を受けたものです。

個人の家に残された資料は、公的な記録に残らないその時代のくらしを伝えてくれます。中でも、戦争関係の資料は、私たちの身の回りや日常のくらしの随所に戦争が影響していたのかを語りかけてくれます。

寄贈頂いた資料は、明治から昭和初期のものが中心です。その内訳は、明治時代に印刷された旅順口各砲台真圖、大正時代に第1次世界大戦が終了したことを記念して印刷された世界地図、篠山神社の鳥瞰図、昭和17年(1942)に国威高揚のために作られた愛国百人一首、戦前に使用されていた皮製ランドセルの5点です。



愛国百人一首



ランドセル

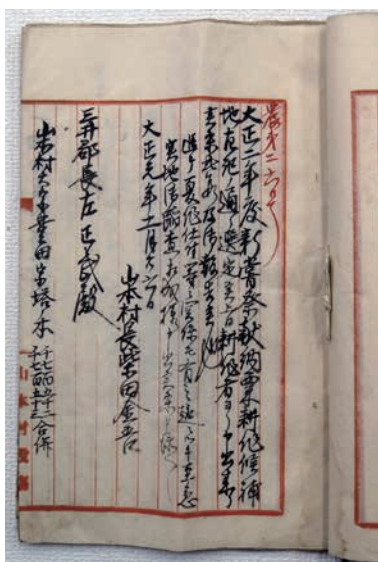
【上野健三郎家資料(第8次)】

上野家は天正年間以来、400年余り続く旧家で、江戸時代には山本郡柳坂組の大庄屋を勤めました。同家に伝来した近世・近代資料は、これまで数次にわたって本市に寄贈、寄託されています。

令和元年度には、明治時代に地方における民権運動を推進し、また農村発展に努めた上野雷八の関係文書を中心に24点の寄贈を受けました。

上野雷八は、安政2年(1855)に生まれ、幼少より和漢書籍を学び、明治時代に入ると東京で英学・農学を修め、帰郷して田主丸中学などで教鞭をとりました。この間、民権思想の普及にも努め、旧久留米藩内の自由党草分けの功労者となりました。明治20年(1887)以降、農業に従事し、山本村農会長を4期にわたって勤めるなど、農村の指導に貢献しました。

寄贈資料には、教諭時代の辞令や、農会長慰労状、山本村村社・素盞鳴神社氏子総代の功勞に対する表彰状、また大正3年(1914)の新嘗祭で献上する粟の耕作者に選定された時の記録である「献納粟耕作二関スル一件」などがあります。



献納粟耕作二関スル一件

令和元・2年の収蔵資料一覧

日付	資料名	点数	氏名	区分
1・14	久留米緋布団	2	匿名	寄贈
3・5	福岡縣地圖第二版	1	匿名	寄贈
3・6	石井光次郎墨蹟	1	匿名	採集
3・9	大日本帝国政府軍用手票丁号券(1銭)	1	匿名	採集
3・19	矢野十三雄家資料	8	矢野十三雄	寄贈
3・25	上野健三郎家資料(第8次)	24	上野健三郎	寄贈
3・18	牛島謹爾写真アルバム	1	匿名	購入
5・15	今村哲朗家資料	5	今村哲朗	寄贈
5・28	久留米大学前駅開業記念入場券及び久留米高校前駅開業記念切符	2	匿名	採集
6・9	三谷有信筆「風景スケッチ」	6	匿名	購入
7・2	福田家資料(第1次)	433	匿名	採集
7・2	福田家資料(第2次)	236	匿名	採集
7・3	久留米つつじ関係資料	1	(一財)久留米市みどり推進機構	寄託
8・3	銅矛	1	麦生区	寄託

【江崎家資料（第3次）】

近代には材木商を営み、また戸長を務めた江崎家。今回寄贈いただいた資料群は、明治から昭和戦前期の写真・地図・地域活動に関する書類など、多岐にわたります。その中から、ひととき目をひいたアルバムの1ページをご紹介します。

昭和15年「久留米体育協会主催二千六百年奉祝野球大会」が開催されました。当時、寄贈者の叔父はブリヂストンタイヤ野球部に所属しており、その大会へ参加しました。当資料は、アルバムの黒い台紙に白線で野球のグラウンドを描き、部員が受け持つ守備位置に各々の写真を貼っています。その脇には、本町・日吉町・久留米工務出張所・カミヤ洋服店と対戦したこと、そして「此ノメンバーニテ出場シテ優勝ス」という輝かしい文言も記されています。



グラウンドにて



昭和15年奉祝野球大会布陣

またこのアルバムには、ユニフォーム姿で部員と肩を組み、柔和な表情を見せる写真も収まっています。今回の寄贈は、このような思い出の詰まった資料群であり、「大切に保管していかねければ」という思いを新たにす、出会いとなりました。

(石橋)

【牛島謹爾写真アルバム】

明治〜大正にかけてアメリカでポテト農園の経営に成功し、「ポテトキング」と呼ばれた牛島謹爾が、糸島市の豪農へ嫁いだ妹へ贈呈した写真アルバムを購入しました。

59葉の写真が貼られたアルバムには家族、豪邸や農園の様子が写されています。自分の肖像写真には「我が愛する阿妹に寄す」と記されています。その他、漢学者江崎済の北浜義塾の同門で三越百貨店を開き日本百貨店の父と呼ばれた日比翁助、日米親善のために渡米した財界の重鎮渋沢栄一、私淑した海軍元帥東郷平八郎など、在米日本人会会長として交流した人々との写真、さらにこれまで知られていなかった大正11年(1922)に交通事故で負傷した姿の写真が注目されます。

(水原)



渋沢栄一子爵歓迎夕食会（一番奥に渋沢栄一）



事故後の姿



東郷平八郎と



日比翁助と

寄贈資料より一部紹介



軍用手票  
丁号券（一銭）  
【採集資料】



手ぬぐい（1974 新春名刺交換会）  
【森久家資料】



手習い帖  
【矢野十三雄家資料】



絵葉書「縣立久留米中學明善校（行在所）」  
【伊福家資料】

12・8	12・8	12・7	11・30	10・30	9・27	9・24	8・11
坂本繁二郎画伯筆「馬」之図	河原俊治家資料	スチームアイロン	雑誌「ミセス」・ナショナル蛍光灯	伊福家資料(第1次)	江崎家資料(第3次)	護国神社祭礼図 高良大社絵図	森久家資料
1	48	1	31	2	294	17	4
東原日出人	河原俊治	—	—	伊福雅	江崎幸一	—	森久
寄贈	寄贈	採集	採集	寄贈	寄贈	採集	寄贈

## 【三谷有信筆「風景スケッチ」】

久留米藩最後の御用絵師である三谷有信（1842

～1928）による山岳風景などを描いた水彩画です。

有信は、江戸末期に木挽町狩野家に入門し、帰郷後は絵師として活動します。明治・大正期には研究した西洋画法の教授も行いました。また、県会議員、初代会議長を務め、土族授産の奨励、久留米緋の改良など、久留米の政治・教育・実業にも貢献しました。作品の多くは日本画であり、西洋画は貴重な作例です。

有信自筆とみられる紙背墨書には、明治9年（1876）5月に三藩県から長崎師範学校での画学の研究を命じられるも、自費で東京へ行き、麹町平河町の国沢新九郎（1848～1877）に洋画を学んだということが記載されています。本作が同年7月、国沢の下で描いた水彩画であることが分かります。

久留米の洋画は森三美（1872～1913）に始まったとされますが、その帰郷に先んじて、有信が西洋画を学習していることが示されており、久留米における西洋画の教育においても有信が先駆者であったことが窺えます。



山岳風景（山小屋・馬車）

久留米における西洋画の教育においても有信が先駆者であったことが窺えます。

（原口）

## 【銅矛】

銅矛は青銅製武器の一種で、日本では弥生時代中期頃から北部九州で生産され、大型のものは祭祀に使われていたといわれます。

令和2年8月、田主丸町麦生区から、矢倉八幡宮の本殿で神体として祀られてきた銅矛の寄託を受けました。これを収納していた木箱の墨書などによると、銅矛は享保7年（1722）に上妻郡藤田村田代堤（現・八女郡広川町）で発見された5本のうちの1本で、文政7年（1824）に久留米藩が「国家安全全五穀豊熟」を祈念して矢倉八幡宮に奉納しました。

遡って元禄10年（1697）にも藤田村天神浦で銅矛10数本が発見されており、久留米藩はこれと田代堤出土分とあわせて領内各所の神社に分納しました。これらのうち市内で現存を確認されるのは、高良大社（御井町）、秋葉神社（榎原町）、そして矢倉八幡宮に伝わるもののみです。

秋葉神社所蔵品もまた社宝とされてきたもので、平成17年度より本市が寄託を受けています。（六井）



銅矛の保存箱

銅矛

## 【久留米つつじ関係資料】

本資料は、久留米市世界つつじセンターより寄託された、赤司廣楽園、案納開楽園、桑野養盛園の『営業案内』及び、育成品種一覧と改良記録です。

久留米つつじは江戸時代後期に、久留米藩土坂本元蔵がキリシマツツジを元に品種改良をしたところから始まります。「久留米つつじ生みの親」といわれていて、200種類もの新しいツツジを作り出し、現在もいくつかは久留米つつじの優秀な品種として育てられています。そして、今もなお、久留米つつじは新しい品種が生み出されています。

『営業案内』は今でいうところの通販カタログにあたります。「久留米つつじの育ての親」といわれる、赤司廣楽園創業者の赤司喜次郎が、ツツジの通信販売というシステムを全国に先駆けて始め、商売は飛躍的に繁盛しました。

この資料の内容は、久留米市世界つつじセンターのホームページで閲覧することができます。（小宮）



桑野交配つつじ品種一覧



営業案内

■六ツ門図書館展示コーナー

久留米市文化財収蔵資料は、くるめりあ5階の六ツ門図書館展示コーナーで展示公開しています。令和2年度には、本課主催の展示として2回の企画展を開催しました。

なお、六ツ門図書館展示コーナーは今年度に開館10周年を迎えました。

【久留米市収蔵資料展2020

平和・祭典・人々の暮らし】

令和2年10月3日～12月6日

主催 久留米市、久留米市教育委員会

共催 ピースフルくるめ推進協議会

後援 公益財団法人久留米市体育協会

平成25年度以降に収蔵した資料を中心に昭和戦前・戦後期の「平和・祭典・人々の暮らし」をテーマに展示を行いました。展示総数145点のうち、整理と調査を終えた42点が初公開の資料でした。期間中、1023名が来館されました。



チラシ

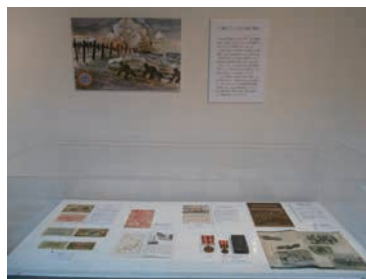


展示会の様子

展示資料は、「戦時の暮らし」「戦後の暮らし」「オリンピック」「スポーツの近代化」「私の記念日」をキーワードに、人々の暮らしや社会の変化を振り返りました。

戦時の暮らしは、銃後の守りを強いられ、人員だけでなく、生活に関わるものも戦争のために総動員されていました。防衛食容器や米穀通帳などの資料から、暮らしの中に戦争が入り込んでいた状況を窺い知ることが出来ます。

戦後の暮らしでは、当時の日記や地域の文書の記載のなかに、徐々に復興していく暮らしの変化をみる事ができます。黒塗りの教科書は、戦前と戦後で正反対



戦時の暮らし



近代オリンピック



戦後の暮らし



東京オリンピック



久留米と東京オリンピック



私の記念日



市民スポーツ



特別展

の対応を強いられた当時の社会情勢が見て取れます。近代オリンピックと東京オリンピック関連資料や、記念写真などからは、オリンピックに沸き立つ久留米の様子や、生活にゆとりが生まれていく様子が浮かび上がってきます。

また、今回の企画展では、市が収蔵する資料の他に、企業や個人、学校から資料借用のご協力をいただき、1964東京オリンピックの聖火ランナーシューズや、東京オリンピック関連の資料、ベルリンオリンピックの年に制作された市松人形、高等学校のスポーツ大会優勝旗などの特別展示をあわせて行いました。

(塚本)

【むかしのくらし展】

着る・食べる・住まう

令和3年1月23日～3月21日

主催 久留米市、久留米市教育委員会

例年、小学3年生社会科学習の単元「昔の道具とくらし」に合わせ、久留米の昭和30年代の暮らしを中心に展示会を実施しています。

本年度は、私たちの生活の基盤である「着る・食べる・住まう」をテーマに、戦中から戦後の復興期、そして、現代にいたる久留米の歩みを、生活用品や服飾品、当時の写真などを通じてたどる展示を実施しました。道具や技術の進化が私達のくらしにどのように影響を与えてきたのかを解説しています。



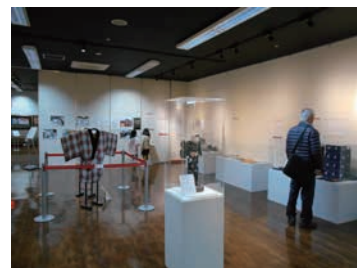
展示風景

令和2年度六ツ門図書館展示コーナー展示会一覧

展覧会名	期間	主催
収蔵資料展 2020 - 平和・祭典・ 人々のくらし -	10月3日(土) ～12月6日(日)	文化財保護課
人権ポスターパネル展	12月12日(土) ～12月27日(日)	協働推進部 人権啓発センター
むかしのくらし展 - 着る・食べる・ 住まう -	1月23日(土) ～3月21日(日)	文化財保護課



展示風景



見学の様子

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、団体見学は中止となりましたが、自宅からでもむかしのくらし展を観て・感じて・学べるよう、道具の使い方の動画を配信しました。  
(大塚)

【有馬入城前夜シリーズII】

小早川・田中の時代

令和2年9月26日～令和3年1月11日

主催 公益財団法人有馬記念館保存会

久留米市、久留米市教育委員会

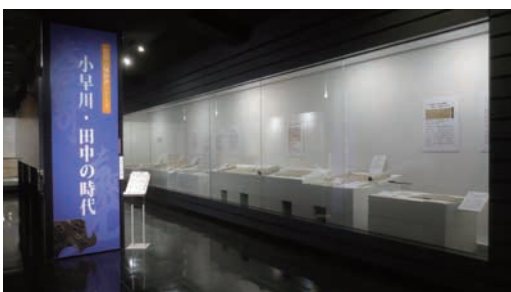
本展は、2021年に有馬豊氏の久留米入城400年を迎えるにあたり、その前史を紹介するシリーズ企画展の第2弾として開催したものです。

九州の戦国時代が終わりを告げてから、江戸時代の泰平の世を迎える有馬豊氏の久留米入城前夜、筑後久留米の地は小早川秀包、次いで田中吉政・忠政によって治められました。

本展では、福岡県久留米市内に伝わる高良大社所蔵文書(県指定有形文化財)、梅津家文書・隈家文書・玉垂宮文書(市指定有形文化財・久留米市教育委員会寄託)、善導寺文書、朝日寺文書などの貴重な史料群から、小早川・田中時代の古文書や歴史資料など約40点を一挙公開しました。あ

わせて、市内に所在する小早川秀包や田中吉政・忠政ゆかりの地を紹介しました。

内容の一部については、有馬記念館公式フェイスブックで、展示品紹介や「小早川・田中の時代」紀行として発信しています。  
(穴井)



展示風景

資料の活用

資料の貸出

【展示への出品】

令和2年度の展覧会への出品は、表のとおりです。

No.	展覧会名	期間
①	春を彩る ～雛と花の宴～	令和2年2月1日(土) ～4月6日(月)
②	山水風景の旅 ～久留米藩御用絵師の 絵画からII～	令和2年4月18日(土) ～8月31日(月)
③	人形づくし、春づくし	令和3年2月6日(土) ～3月31日(水)

※主催は、公益財団法人有馬記念館保存会

令和元年度・2年度の展覧会への出品は、(公財)

有馬記念館の企画展「春を彩る～雛と花の宴～」山水風景の旅「久留米藩御用絵師の絵画II」 「人形づくし、春づくし」の開催にあたり、久留米市の収蔵資料を貸し出しています。「人形づくし、春づくし」では、唐草龍胆車紋蒔絵手箱からくろりんどくるまもまきぎてばこなど有馬家ゆかりの品のほか、弓曳き童子・文字書き人形、赤坂人形などの郷土人形、土鈴などの資料を貸し出しました。また、久留米市人権啓発センターの常設展示に和太鼓を通年で貸し出しています。

【調査のための資料提供】

個人や団体の調査・研究に対応するため、関連する資料を提供しています。今年度は久留米の遊郭についての研究の一端として「娼妓所得金日誌」しやうぎしよとくきんじつしなどの提供を行いました。

【教材として】



防空頭巾

小学校での平和学習の教材として、防空頭巾や雑囊ざつのうなどを貸し出しています。また、むかしの暮らしの体験授業のため、ちきりや石臼を貸し出し、きなこ挽き体験等に使用されています。

【資料の提供】

本館が所有する資料を、印刷物等へ掲載を希望する個人や団体に対して、提供しています。

本年度は、西日本新聞、読売新聞、毎日新聞の各新聞社や、RKB、FBS、サガテレビなどといった報道機関の他、筑紫野市等の近隣自治体、教材を扱う企業などに、久留米の昔の風景写真や、昨年話題となったドイツ兵捕虜関連



筑後川下流航空写真

の他、雑誌に掲載する資料の撮影、掲載の許可も行っていきます。昨年度に引き続き、ドイツ兵捕虜に関する資料掲載依頼が5件ありました。また、令和3年に、初代久留米藩主である有馬豊氏が久留米城に入城して400年を迎えることから、久留米城に関する資料の掲載依頼も多くなっています。

■その他の事業

【学芸員実習】

学芸員の資格取得のためには、現場での実習が必修です。例年、久留米市でも学生の受け入れを行っています。今年は、令和2年8月17日～25日までの土日を除いた7日間で、久留米大学の学生2名が実習を行いました。



学芸員実習の様子

実習は、有馬記念館で資料の取り扱い体験、実際の資料を使った六ツ門図書館展示コーナーの展示構成案作成や、当館の資料整理、資料撮影の技法など現場ならではの実際も取り入れ、実務を学んでいただきました。(大塚)

## おしらせ

## ■資料収集のご協力をお願い

久留米市では、久留米の歴史を伝える資料について収集をすすめています。現物だけでなく、市民の皆様がお持ちの資料について調査・撮影の許可をいただき、写真による収集も行っています。

これまで収蔵してきた資料は、古文書、古記録、古写真、書画、陶磁器、金工・漆工品、民俗資料など多岐にわたり、近年では昭和30～40年代の電化製品や日用品が増加しています。また、戦争関連の資料の寄贈も増加し、平和を語りつぐための貴重な資料となっています。しかし、年代や種類、テーマごとに見ていくと、久留米の歴史を考えるうえで必要な資料が、十分に揃っているとはいえません。

## ●久留米藩関係の古文書など

政治・経済・思想・文化などさまざまな分野について、江戸時代の久留米を考えると、重要な資料です。久留米藩は、武家だけでなく、社寺、町、農村にも文書を発行していましたので、市内外各地に伝来している可能性があります。

## ●地場産業関係の写真など

近代久留米の発展を語るうえで欠かせない資料です。

対象となるものは、久留米の歴史に関わる資料です。先人達が紡いできた地域の歴史を後世に伝えていくためにも、みなさまの広いご理解・ご協力をお願いいたします。

## 【令和3年度企画展】

## ▼久留米入城400年記念展

「久留米城下町(仮)」

令和3年(2021)は、久留米藩主初代有馬豊氏が丹波福知山(現・京都府福知山市)8万石から北筑後21万石に加増され、久留米城に入城してから400年にあたります。以降、久留米城と城下町の大改造工事が開始され、20数年の年月をかけて町並みが完成しました。城下町は、外郭の南面に広がる谷部分を埋め立て、整地して町屋とし、その周りの比較的標高の高い土地を武家屋敷に決めました。城と城下町は堀で明確に分けられました。昭和20年の空襲や第2次世界大戦の復興事業により失われた城下町の町並みは、残された文献や資料、絵図などから復元を試みています。

本展示では、発掘調査によって判明した城下町の様子や先人たちの生活を、出土品や写真・絵図などの資料から浮かび上がらせます。



朝妻焼



木製品(人形頭)

## ▼むかしのくらし展

例年実施している、小学3年生の社会科学習「昔の道具とくらし」単元にあわせて開催する企画展です。これまで昭和30～40年代を中心に、生活や道具の移り変わり、子供の遊び、祭りなどを取り上げてきました。昭和30年代、高度経済成長の波に乗って、各家庭にモノが行き渡るようになり、家電ブームが起きます。洋風調理の普及、大衆車の登場などもあり、人々の生活スタイルも急激に変化していきました。今、私たちの生活は、新型コロナウイルス感染症の影響によって大きく変わろうとしています。「むかしのくらし展」で生活の歴史をたどるとともに、これらの暮らしのヒントを探してみませんか？

## 【編集後記】

断捨離ブームと外出自粛があって、家の片付けをする機会が増えました。古いモノの中には、久留米市の収蔵資料となる候補が眠っているかもしれません。捨てればゴミ・活かせば資料。捨てる前にモノと対話してみませんか。

令和3年度六ツ門図書館展示コーナー企画展(予定)

展覧会名	期間
久留米入城400年	8月21日(土) ～11月2日(火)
むかしのくらし展	11月20日(土) ～3月21日(火)

## 『収蔵館ニュース』第17号 2021年3月31日

発行 久留米市市民文化財部文化財保護課・久留米文化財収蔵館

久留米市諏訪野町1830番地6

TEL 0942-3816194

Eメール bunkazai@city.kurume.fukuoka.jp